

清涼寺式釈迦如来像とその類似像

星楚山東栄寺如来像の背景

2019.4.20 巖由美



1. 清涼寺の釈迦如来像とは



釈迦が在世の折、忉利天という世界に暮らす亡き母に法を説くため、一時この世を離れることになった。

釈迦に深く帰依していた優填王は大変寂しく思い、釈迦の姿を写し取って、代わりの像を造らせたという。

この像はやがてインドから中国に伝わり、東大寺の学僧裔然（938～1016）が模刻させた像が永延元年（987）に宋から請来され、京都市嵯峨野の清涼寺に安置されるに至った。

以上の伝説から清涼寺本尊像は「三国伝来の釈迦」と呼ばれ、生きた仏（生身仏）として厚い信仰を受けた。

特徴点

- [1] 縄を編んだような頭髪
- [2] 身体の正面でU字状に同心円を描く衣文
- [3] 両肩を衣が覆う（通肩）

2. 清涼寺式釈迦如来像の流布



● 三国伝来・釈迦の生き写しの霊像への信仰の高まりと共に、清涼寺の釈迦像は、平安時代後期から模刻像が造られ、鎌倉時代には隆盛期を迎えた。京都を中心とする日本各地に約70体が現存する。

● 特に、奈良の西大寺の僧叡尊は、当時隆盛の阿弥陀信仰に対して釈迦信仰、仏舎利信仰を基盤にして戒律復興を鼓舞したため、西大寺など真言律宗の寺では、盛んに清涼寺式像が造立された。

←西大寺の釈迦像
建長元年（1249）仏師・善慶の作

出典 左：『日本の美術』No.513 至文堂
右：『西大寺』保育社

3. 叡尊と忍性

叡尊の弟子の忍性は、西大寺流の律宗を東国に広めるため、建長4年（1252）常陸に入り、小田氏の外護を受けて筑波郡三村山（つくば市小田）に清冷院極楽寺を創建、弘長元年（1261）執権北条時頼の帰依を得て、鎌倉に移るまで教化につとめた。

鎌倉の極楽寺の釈迦像をはじめ、東国には、戒律の普及と社会事業に尽くした忍性の影響下に造立された清凉寺式釈迦像が多数現存している。

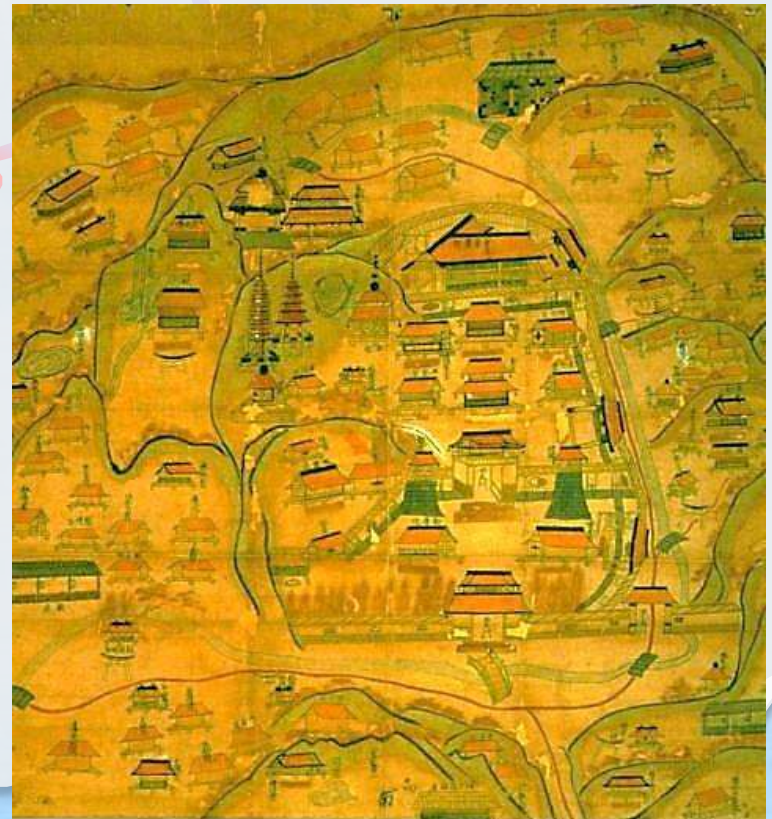


↑ 叡尊像



↑ 忍性像

「極楽寺絵図」 →



東国の清涼寺式釈迦像の分布



清涼寺式釈迦如来像の説明
出典：『八千代の歴史』通史編



関東・東北地方の清涼寺式釈迦像の所在表

No	寺院名	所在地	形状	指定	備	考
1	竜宝寺	宮城県仙台市	類型	重文	大永3年(1523)修理銘	
2	法来寺	山形県山形市	類型	県文		
3	西光寺	山形県山形市	類似形		頭部のみ・坐像	
4	大用寺	福島県喜多方市	類型	重文	13~14世紀	
5	薬師寺	福島県田島町	類似形		頭部のみ・建治4年(1278)・薬師如来立像	
6	専修寺	栃木県二宮町	類似形		頭部のみ・阿弥陀如来立像	
7	開運寺	栃木県石橋町	類似形		頭部のみ・阿弥陀如来坐像	
8	福泉寺	茨城県大洋村	類型	重文		
9	旧一月寺	千葉県松戸市	類似形		頭部のみ・阿弥陀如来立像 (現松戸市)	
10	正覚院	千葉県八千代市	類型	県文	天文15年(1546)・延宝2年(1674)修理銘札	
11	東栄寺	千葉県八千代市	類似形		頭部のみ・薬師如来立像	
12	実蔵院	千葉県佐倉市	類似形	市文	頭部のみ・阿弥陀如来坐像	
13	正光寺	千葉県佐倉市	類似形	市文	頭部のみ・薬師如来立像	
14	密蔵院	千葉県佐倉市	類似形		頭部のみ・阿弥陀如来坐像	
15	永興寺	千葉県茂原市	類型	県文	文永10年(1237)胎内跋文銘	
16	滝山寺	千葉県機川市	類似形		頭部のみ・薬師如来立像	
17	同上	同上	類似形		頭部のみ・釈迦如来立像	
18	卜雲寺	埼玉県横瀬村	類型			
19	清善寺	埼玉県行田市	類型	重文	天保7年(1836)銘	
20	大円寺	東京都府中市	類型	重文	建久4年(1193)銘・旧存鎌倉杉本寺	
21	竜泉寺	東京都府中市	類似形			
22	真福寺	神奈川県横浜市	類型	重文		
23	称名寺	神奈川県横浜市	類型	重文	徳治3年(1308)銘	
24	満蔵院	神奈川県横浜市	類似形			
25	極楽寺	神奈川県鎌倉市	類型	重文	永仁5年(1297)銘	
26	東学寺	神奈川県小田原市	類型	市文		
27	假人蔵	神奈川県小田原市	類型			
28	永泰寺	山梨県上一色村	類型			
29	西念寺	山梨県富士吉田市	類似形		頭部のみ・薬師如来立像	

作成：泷江二郎「清涼寺式とは」金沢文庫研究84 1982年、たなかしげひさ「清涼寺釈迦像様式」
仏教芸術74 1970年などを参考にして、一部調査による加筆した

東国の主要交通路と律宗系寺院



出典：『中世の霞ヶ浦と律宗』に加筆 ○：清凉寺式釈迦如来像安置寺院

4. 鎌倉周辺の清涼寺式釈迦像

関東では、忍性の足跡を追うように、鎌倉とその周辺、および常総に優れた清涼寺式釈迦如来像が現存しています



←目黒区の大円寺像
建久4年（1193）の造立
元は、鎌倉最古の寺・杉本寺
にあった
叡尊の西大寺像以前の銘のある
最古の清涼寺式像

↓2009.1.7 大円寺で撮影



↑金沢文庫の称名寺像

徳治3年（1308）北条実時33回忌建立 出典：2002金沢文庫図録

←鎌倉の極楽寺の釈迦像＝文永5年（1268）ごろか？（「永仁5年」（1297年）の銘があるが十大弟子像と同じ文永5年と考えられる。） 出典：『極楽寺忍性ゆかりの遺宝』



5. 常陸における律宗の足跡

建長4年（1252）関東に下向した忍性が、10年にわたって滞在し布教の足掛かりにした三村山には、宝篋印塔や五輪塔、地蔵菩薩像などの石造物が遺り、出土する瓦が当時を語っている。

忍性が始めた民衆教化のための地蔵信仰や石塔、釈迦像の造立など、常陸での忍性の存在は大きく、この福泉寺像も忍性の影響下に造立された。

← 銚田市福泉寺 釈迦如来立像（2001.10.13 撮影）

常陸の国 三村山 清冷院極楽寺群 1300年頃の想像図



4. 上総 永興寺の清涼寺式釈迦如来像



↑ 茂原市永興寺像 文永10年 (1273)
出典：『房総の神と仏』千葉市美術館

釈迦如来立像 一福
千葉県指定文化財
鎌倉時代 文永十年 (一二七三)
像高一六四・六
木造彩色 切金 玉眼
茂原市・永興寺

入宋した尙然が優曇王作と伝える釈迦如来像を模刻させ、寛和二年(九八三)に持ち帰った像はやがて清涼寺に安置され朝野の信仰を集めた。その模刻は平安時代から既に行われているが、ことに鎌倉時代に釈迦信仰の復興に伴って多くの模像が造られた。この像は像内から多くの経文・願文・結縁交名などの納入文書が発見され、そのうちの般若心経の奥書に文永十年(一二七三) 上総国永興寺で書写したことが記され、像の造立時期が知られる。結縁交名中には弘安二年(一二七九)の西大寺山観尊像や正嘉二年(一二五八)の唐招提寺清涼寺式釈迦像の納入文書中に窺える人名と共通するものがある。また金沢文庫に残る文書からこの寺が称名寺と密接な関係にあったことがわかり、本尊が忍性による西大寺派の関東への布教に伴うものであったことがわかる。結縁交名中の「伊与房」は善円、善春につながる仏師である可能性も指摘されている。像はカヤ材かと思われる寄木造り、彩色は一部に白土地を残すだけであるが、衣文線に沿った切金線と蓮華の団花文切金が認められる。(水野)

6. 村上正覚院の釈迦如来像



像の高さ 166cm カヤ材の寄木造り 鎌倉時代後期*の作
胎内に木造の仏舎利塔と、天文15年(1546)と延宝2年(1674)の
修理銘札を納入。昭和53年に修理された。

*極楽寺像を文永5年(1268)とみると、正覚院像は、永興寺像を経
ないで直接極楽寺像の影響を受け、その後、文永10年永興寺像、福泉寺
像が制作されたと考えられる(金丸和子『房総を学ぶ』2009)

(写真は2003.4.8撮影)

7. 清涼寺式類似像の流布

清涼寺像の摸刻像は、生身性をもつ靈驗あらたかな靈像として信仰され、秘仏扱いも多い。

常総には、本格的な摸刻像のほか、頭髪が縄目状で、薬師如来や阿弥陀如来の姿の類似像が存在している。

特に保品の東光寺ほか、印旛沼周辺には、頭髪が縄目状の如来像が点在し注目される。

佐倉市白井台 実蔵院の木造阿弥陀如来坐像 →

檜材の寄木造り 白毫は水晶 頭髪は清涼寺式
幾分低めの膝高や、肩あがりを感じる木造りから、鎌倉時代末期の仏像と考えられている。
光背・台座等は後補。像背面には「恵心直作浮木弥陀」との金泥による後世の書がある。（佐倉市指定文化財）

写真は2002.5.3撮影



8. 清涼寺式類似像の流布-2

佐倉市畔田 正光寺の木造薬師如来立像

檜材寄木造りで漆箔が施された仏像。
製作年代は、室町時代と推定。
渦巻状の縄を巻いたような頭髪が特徴。雨乞いの際に水をかけたようで、傷みが激しく、肉髻珠と、白毫、両手先、持物の薬壺、光背、台座は昭和62年（1987）に修理したものである。
（佐倉市指定文化財）

2002.5.3 撮影



佐倉市指定有形文化財

木造薬師如来立像

昭和三十九年三月十八日指定

正光寺薬師堂には木造薬師如来立像が安置されています。この仏像は、檜材寄木造りで漆箔が施され、高さ一〇五cmの像です。製作年代については、衣文や全体の姿形からして室町時代の作と推定されますが、ふっくらとした顔や胸部の厚み等に鎌倉時代の様式を窺っています。

この像の特色は顔髪にあり、渦巻状をしています。これと類似する仏像には、寺崎の密蔵院薬師如来像、白井台の宝蔵院阿弥陀如来像などがあり、同じ系統の仏師の作と考えられます。

全体にいたみが激しく、肉髻珠と白毫、両手先、持物の薬壺、光背、台座は近年復旧したものです。

平成七年三月三十一日

佐倉市教育委員会





清凉寺式類似像として、多くの資料に掲載の
佐倉市寺崎の密蔵院の薬師如来像は、
清凉寺式類似像ではなかった！

佐倉市鎗木の周徳院薬師如来坐像との混同か？

↓佐倉市公式HPから

木造薬師如来像及び両脇侍立像(周徳院) <もくそうやくしによらい-ぞう
および りょうわきじ りつそう(しゅうとくじ)>(鎗木町)

曹洞宗医王山周徳院の境外仏堂であった薬師堂に安置されていたが、昭和4年(1929)の薬師堂火災により境内に移されました。薬師如来像は榿材の寄木造で、彫眼に白毫を有し、頭頂部が高く盛り上がり、頭髪が縄目の渦紋状になっていることを特徴としています。製作年代は室町時代と考えられますが、鎌倉時代後期様式を有しています。

両脇侍の日光菩薩立像、月光菩薩立像は、榿材による寄木造です。頭頂宝に宝冠を着け、玉眼を入れています。薬師如来とは別作ですが、ほぼ同時期に製作されたものと考えられます。

[昭和53年(1978)10月18日市指定有形文化財]



← ↑ 密蔵院の薬師如来立像

寛永年間(1624~44)に鹿島川の薬師淵に漂着していたのを引き上げたとされる薬師琉璃光如来を安置している薬師堂は佐倉市指定文化財(建造物)

← 写真は2002.11.8御開帳にて撮影

周徳院山門から
(2005.9.11撮影) →



7. 清涼寺式類似像の流布-3

成田市吉岡 大慈恩寺の釈迦如来立像

大慈恩寺は、鎌倉末期に律宗僧の真源により再興され、下総の中心的な律宗寺院で、金沢の称名寺と深い関係があった寺院。

本尊の釈迦像を拝見すると、頭髮は螺髪で、襟首の衣紋も異なっているが、等身大の素木像は、清涼寺式に近い釈迦像であった。

1421年の堂宇炎上後、1495年に再彫されたという。そのころは清涼寺式の正統な記憶があいまいになっていたのだろうか。

利生塔本尊の釈迦如来座像

宝物の収蔵室には、利生塔の模型とともに、利生塔本尊の釈迦如来坐像が安置されていた。

享祿2年(1529)に作られたことが平成の修理時に判明した坐像で、頭髮が清涼寺式であったことは、これまでの資料にない発見であった。

(右写真は、2002.5.6.撮影)



↑明応4年(1495)胎内銘の釈迦如来立像

(左の写真はH5.4.29成田山靈光館図録から
右は2002.5.6. 撮影)



7. 清涼寺式類似像の流布-4

松戸の旧一月寺の木造釈迦如来立像 (現在 松戸市立博物館所蔵)

建長6年(1254)に金先禅師により開山された「一月寺」は、近世に普化宗触頭として全国の虚無僧寺院を統括した。

この虚無僧寺「一月寺」は明治4年に非公認になり、昭和35年ごろ、廃寺だった一月寺の寺名だけ残して、日蓮正宗の全く別の寺院に変わった。

そのときこの釈迦像は寺の外に出され、郷土史家の松下邦夫氏の紹介で市役所が引き取ったとのこと。

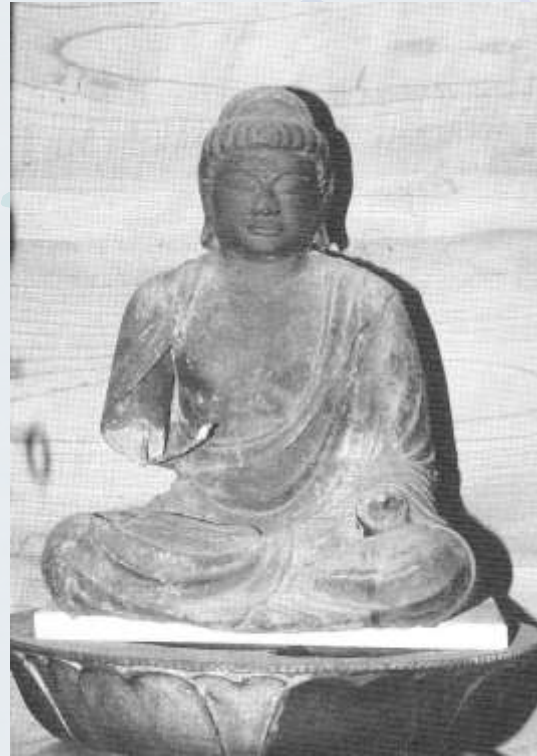
江戸時代は、出開帳もされたというが、歴史の運命に翻弄された釈迦像であった。

博物館で展示する際、専門業者に修理依頼、そのときの修理専門家の感触では、江戸時代の作ということであったという。

(写真は2003.6.7撮影)



7. 清涼寺式類似像の流布-5
常陸の清涼寺式類似像



↑真壁町 椎尾薬王院 金銅薬師如来坐像
出典：『中世の霞ヶ浦と律宗』

←土浦市 観音寺 木造薬師如来立像
出典：『中世の霞ヶ浦と律宗』



↑笠間市 浄乗寺 銅造阿弥陀如来立像
(善光寺式阿弥陀像との混合像)
出典：「茨城県指定文化財の指定について」平成30年12月25日公表

8. 保品東栄寺の如来像



「薬師如来像」と伝承されてきたが、像容は「阿弥陀如来像」。

頭髪は、清涼寺式とされる。現在は本堂左陣の位牌堂に安置。

宝永4年(1707)の薬師堂大改修までの薬師堂本尊の「薬師如来像」であったのではないか。

その後近代の修復で「阿弥陀如来像」に転用、祖霊成仏祈願の尊像とされたのであろうか。

補修の厚い彩色のため細部は不詳。

8. 保品東栄寺の如来像-2



現在の薬師堂本尊の「薬師如来像」
脇侍の日光・月光菩薩、十二神将を従える。
近世のきれいな像で、宝永4年の薬師堂大修理の際に新調されたのであろうか。
頭髮は、位牌堂の像の「清凉寺式？」を踏襲しているのか、螺髪表現はない。